

平成29年度町政報告・意見交換会について

町政報告・意見交換会が5月から6月にかけて町内全校区であり、町民約180人が参加しました。

会は町長、副町長、教育長、役場全課長が出席のもと行われ、田淵川町長が平成29年度事業の説明を行い、その後、意見交換を行いました。

意見交換会で出された意見や要望などについて、各校区ごとにまとめました。

※関係機関との協議が必要な部分については、現在調整中です。



平成29年度 中種子町行政報告会【星原校区】

開催日時 平成29年6月2日(金) 18:30~20:00

開催場所 浜津脇漁民センター

意見交換

【住民】 現在、防災無線が3時と10時の時報が流れているが、高齢化率も上昇している中で、懐かしい音楽、例えば町民歌・中種子音頭を流せば、町民も懐かしいと感じるのではと要望していた。回答は、防災無線が完全デジタル化となった時に検討するとのことであったが、その後どのようなようになったのか。

【総務課長】 議会からも要望があるところであり、現在、委託業者に音源を作成してもらっている。時報については、そのような曲で対応したいと考えている。

【住民】 漁民センターは本町の指定避難場所となっている。漁民センター入口に避難所の表示をすれば、校区・町民も認知できるのでは。

【総務課長】 検討させていただきたい。

【住民】 今年4月から総合事業が本町でもサービス開始となっているが、「生きがい対応型デイサービス事業」は今後もあるのか。

【福祉環境課長】 詳細を調べさせていただきたい。

【住民】 役場庁舎2階に車いすで行く際は、中央公民館から行くようになっているが、もし車いす利用者が2階へ上がる場合は、誰が介助をしてくれるのか。

【総務課長】 総務課に遠慮なく言っていただきたい。

【住民】 光ブロードバンドは、来年6月に浜津脇局がサービス開始と聞いているが、利用できるのは、浜津脇集落だけなのか、それとも星原校区全体で利用できるのか。

【副町長】 光ブロードバンドサービスは、先日、中種子交換局がサービス開始となった。残りは、浜津脇・坂井交換局があるが、2局は来年6月1日に開局予定である。これにより、光ブロードバンドサービスが本町全体で利用可能となる。

【住民】 昨年、農道の測量をし、舗装の改修をすると聞いていたが、どのようなになっているのか。

【農地整備課長】 グレーチングの付け替え、ガードレールの腐食箇所の付け替え、その他舗装の傷んでいるところの改修を鹿児島県の事業を実施することとなっている。本町で10路線程度あるが、これらは早めの施工で行うよう進めている。測量業者で傷んでいる箇所のチェックリストが作成されており、随時、鹿児島県で実施していく段取りとなっている。

【住民】 先般、シカの被害調査があったが、ネットを張ったり、電気柵を設置したりと、事前に被害対策を行っているため、毎年調査については被害無しで回答している。事前に個人等で対策をどのように取っているのかの調査も必要ではないか。また、ネット・電気柵が支給されるのは9月だと思うが遅いのでは。

【農林水産課長】 事業を使わずに自ら対策をし、被害の未然防止を行っている者が、どれくらいいるのかの調査はできていない。事業については、鹿児島県の事業であり、5月・6月に導入するのが不可能であるため、次年度対策で購入してもらうようお願いしたい。

【町長】 次回調査を実施する際は、自らシカ対策を取っている捕縄がどれくらいあるのか一覧を付け加えるだけで実情の把握がしやすい。

【農林水産課長】 被害調査についても、回収率が低く、実情の把握が難しいところもある。

【住民】 被害調査の調査目的の説明がないため、アンケートをする側も何の目的に使用するのかわからない。鳥獣被害対策の何の材料に使うかを示していただきたい。目的を明確にすると回収率も上がると思われるが、また、担当職員も足を運び現場等の状況も見ていただきたい。星原地区は被害も大きい。被害調査は書類上でやっているが、何も見えてこないため調査書を提出しないのではないのか。地区の現地調査を実施していただき、ネットの張り直し等を確認していただきたい。また、ネットの張り方は細かいくくりでなく、もっと大きいくくりでできないのか。

【農林水産課長】 職員は、キビの調査・水田調査・甘藷植え付け調査など、いろいろな調査時に現場に出向く機会があるため、本地区の被害状況も把握しており、課内でも職員間で話していることから認識はしている。4月にあった会計検査の検査員から、「1枚1枚の畑で電気柵をしているのは無駄ではないのか、大きく囲むことはできないのか」との指摘があった。地域で話し合いができれば可能なのか。事業推進する際に、隣接と互いに調整ができれば効果的にネットの張り方もできることも推進して行かなければならない。安い経費で、負担の軽減を図られるよう効果を上げていかなければならない。

【住民】 行政側から、このようにやればというような話しを持ってきていただけないか。個人では、なかなかである。林道を造って、そこにシカ被害対策を行えばよいのでは。

【町長】 町有林を切り開いて、フェンスをして餌付けすれば効果的なのかと考えるところである。町有林が伐期を迎えており、山を蘇らせるためには伐採を行う必要があるのだが、チップの値段が安かった。しかしながら輸送費も含め、今後、良質なチップが高値で売れる状況が見込まれつつあるため、徐々に伐期を迎える町有林については、そのような対応をしていく必要がある。伐採した後の町有林の整備を行うためには林道の整備が必要であり、伐採した後には、杉でなく海の保全から考えると広葉樹も必要と考える。これらは、単年度でできる話では無いと考えるので、それらを念頭に置き林部・水産部とも連携を図りながら進めていく。

【農林水産課長】 林道の新設だが、起点終点が4m以上の町道があれば、町道との間に林道を新設できるが、受益面積が50㎡以上という条件をクリアしなければならない。おそらく牧川地区は可能と考える。それを鹿児島県が代行して実施してくれる事業もあるため、「この間」という箇所があれば現場を確認させていただきたい。

【住民】 「定住促進住宅整備」「空き家バンク制度事業」とあるが、年間を通して、本町に移住したいという問い合わせはどのくらいあるのか。また、役場では、空き家の情報は持っているのか。

【企画課長】 空き家・移住の問い合わせは、役場企画課にある。数値が手元にないため正確な数値はわからないが、たくさんはない。実際に空き家を探している者は、役場に問い合わせがある以上にいるという感覚は持っている。空き家バンク制度があるが、手持ち空き家がないと紹介できない。平成28年度に町内規模の空き家調査を実施した。航空写真を撮り、現地の調査等実施しており、空き家の位置を地図上に落としている。また、持ち主に対し、今後の空き家の活用、提供空き家調査等のアンケート調査を実施した。回答した者については、盆・正月・年忌祭りに使うため貸し出しとしては考えていない意見もあり、実際に定住のための空き家バンクに登録する件数は少ない状況である。今後も、Uターン定住者に貸し出しができる体制づくりが重要と考えており、空き家の改修補助事業も行っているため活用を推進していきたい。

【住民】 農道1件、町道3件の舗装・整備をお願いできないか。

【建設課長】 安方線は、再三に渡り現場を確認しているが、農道との関連もあるため再度調査をさせていただく。竹之川田之頭線は、以前調査を実施しているが、再度調査し、穴ぼこ等を確認し緊急にできる場所は対応したい。20mの延長についても再度調査・検討させていただきたい。

【農地整備課長】 農道整備の件は、担当係長と一緒に現場を確認させていただきたい。

【住民】 坂元のおたつめたつの施設があるところは道が狭い箇所がある。離合ができないところであり、舗

装の側溝の蓋を要望したところであるが、側溝が昔のタイプでありできないとのことであり、もうしばらく待って貰いたいとのことであった。それが4～5年前のことであったが、その後どのようになったのか。

【建設課】 計画に入れられるかどうかを再度検討させていただきたい。現在のところ計画にはない。

【住民】 星原校区は、町内で一番の少子高齢化が進行しており、各集落の人数も減少している。この状況に歯止めをかけるには、若い小中学生を持った世帯を受け入れ、人口を増やせたらと考える。そのためには、空き家住宅の確保が重要だと思うが、校区内にも多くの空き家が見受けられる。借りたい者もいるため、大家に打診をするが補修等に費用がかかるため貸すことができないとのことである。可能であれば、行政で補修等をしてもらい、借り手がいた場合に直ちに入居できるような体制を整えば、人口増に繋がると考えるが。

【町長】 人口減少対策は重要な課題である。地域の活性化も人が住んでいないと厳しい面がある。空き家を確保し、移住者を受け入れる、定住者を受け入れるということは、非常に大切なことである。また、住む家もそうだが、移住者が働く場所がないという課題もある。農業の所得が、もう少し上げれば農業従事者も増加し、それで生活をしていく移住者も増えると考える。そのようなところも含め、あらゆる角度から検討し、種子島の情報発信を行いながら、農業関係の実習交流を実施し、空き家対策も検討させていただきたい。

【住民】 馬毛島の問題についてだが、種子島の人口増・活性化のためには、自衛隊誘致が必要なのでは。

【町長】 馬毛島問題の管轄が西之表市である。馬毛島問題対策協議会自体が馬毛島に対しての自衛隊基地並びに自衛隊基地でのFCLP（米軍艦載機訓練）に関しては反対という立場である。本町の議会としては、協議会が反対の立場であるがゆえに情報収集ができなかったり、調査研究等ができないということで協議会を離脱した経緯がある。南種子町議会も同じ理由で離脱している。私としては、賛否を問わず色々な情報収集を行うためには、反対の立場であると情報は入ってこないと考えている。新たな西之表市長がどのような方向で考えているのか注視していきたいと考えている。旧空港跡地への自衛隊誘致は、本町議会も平成18年に誘致を議決していることから、自身も旧空港跡地に自衛隊を誘致する事に関しては、議員の皆さんと意思疎通を図りながら協力していきたいと考える。

【住民】 近年、町民体育祭も人口減少の要因もあると思うが寂しさを感じる。小規模校区のスポーツ推進員も子どもが少ない現状の中、選手の確保に大変苦労している。西之表市のようにランク別にするとか、採点方法を考えると、高齢者でも楽しめる競技を取り入れるとか、競技のあり方を考えていかなければならないと考えるが。

【社会教育課長】 町民体育祭の競技種目については、各校区のスポーツ推進員と協議を行いながら決定している。昨年、西之表市のようにランク別を取り入れたらいかがかという協議も行ったところであるが、なかなか良い返事が貰えなかった。小さい校区を考えると人が少なく選手選考にも苦労していると理解するが、野間校区のように小学校の子どもが出場できる競技が少ないということもある。多くの子どもたちを参加させるためにランク別を取り入れ、玉入れの人数を多くしたらどうかとの提案も行ったところである。スポーツ推進員も自身の校区で勝ちたいという意欲もあるのかと感じるところである。今月、スポーツ推進員との会議も予定されているので、このような意見があったことを伝え、検討していきたいと考える。本年度の町民体育祭は、50回記念であり、鹿児島事業の新体操部を呼ぶようにしてある。時間の関係もあり、数種目削除しなければならない状況である。このことについても、スポーツ推進員と協議を進めていきたい。

【住民】 スポーツ推進員だけでは、決められないと思う。もう少し校区役員等の人数も入れて協議をしたら、意見も出やすいのではないかと。スポーツ推進員も今年を終わらせばという考えもあるため、将来性が見えてこないと思うが。

【社会教育課長】 その件に関しては、一昨年、女性部のマスゲームがなくなり、昨年は復活させようとし、校区長も入れて協議を行った。今年度についても、校区長を含めて協議できるようにしたい。

平成29年度 中種子町行政報告会【納官校区】

開催日時 平成29年5月13日（土）18:30～20:00

開催場所 平鍋公民館

意見交換

【住民】 シカ罾に猟犬がかかってしまい、罾から外した後、そのままにしており、罾を仕掛ける者と猟友会でトラブルになっていると聞くが、行政は把握しているのか。また、罾免許所持者は、どのくらいいるのか。罾による捕獲頭数、猟友会による捕獲頭数を教えていただきたい。

【農林水産課長】 罾を外してしまうということは、直接聞いたことがない。罾については、設置した場所にプレート（表示）を付けるようになっているが、猟犬もかかることがあるのかもしれない。協議会の中で、そのような実態があるのか確認する。

【町長】 猟友会は、狩猟で行う者、罾を仕掛ける者とで一つの猟友会である。その中で若干調整をしてもらわなければならないと話しをしたことがある。猟友会と行政で協議を行いながら、トラブル・事故等がないようにしていかなければならない。

【農林水産課長】 罾免許所持者は、猟友会全体で20数名いるが、実際に罾の仕掛けを持っている者が14・5名いると思われる。実際に罾を仕掛ける者は3人程度である。捕獲頭数は、狩猟・罾を合わせ、平成28年度669頭、平成27年度599頭であった。鹿児島県が、シカの生息調査27・28年度調査を実施したが、増加しているとの調査結果があった。島内でもポイント（調査地）を絞って島内全体の調査を行い、本町では熊野地域での調査を実施した。平成28年度に西之表と牧川から十六番周辺の共同捕獲を実施したが、前日の雨が降り、シカの臭いが消え、猟犬が見つめることができなくなり、捕獲頭数は0となった。天候等の状況が良ければ成果がでたと思われるので、29年度も引き続き実施する方向で進めている。

【住民】 若い役場職員のあいさつがない。会っても黙礼もないとの町民からの声を聞く。役場と農協を比べた場合、役場の職員の方が、あいさつがないと聞くので、指導をお願いする。

【町長】 役場職員を2年間見てきたが、職員も一生懸命に職務を行っている。しかし、あいさつ、電話対応のまずさなど、頑張っている、その評価は落ちてしまうと話しを常日頃している。指摘を真摯に受け止め、指導をしていきたいと考えるので、気づいた点等あった場合は連絡してほしい。

【住民】 ふるさと納税の寄付額を教えていただきたい。

【企画課長】 平成28年度のふるさと納税の寄附実績は、手元に資料はないが、約132百万円、寄附一口1万円から、多い者だと100万円単位の寄附をする者もいる。御礼・返戻品を準備しており、寄付額に応じて品物を選んで貰っている。返戻品は、約30種類程度あり、それに関わる事業者が24・25業者の協力をいただいている。品物として、焼酎・安納いもがあり、焼酎については、町内の各酒屋が関わっているため、関係する業者が複数ある。安納いもは、一つの品に対して、ブランド推進本部という、安納いもを高めていく組織があり、その推進本部に加盟している生産農家が複数いるため、同様に関係する業者が複数ある。お菓子・水産品・加工品等の返戻品があるが、寄付者の中には、「返戻品は不要、町民の為に使ってください」との非常にありがたい者もいる。

【住民】 遺族会へ、今回の弔慰金の申し込み手続きに対する職員対応の苦情を聞いている。貰える遺族に対し、申請手続きをしたが貰えなかったという事を聞いた。弔慰金が4万円から5万円に上がり、大変喜ばれている遺族もいるが、職員の対応が悪く、貰えないような手続きをしてきたという方もいた。2～3年前からすると、遺族も相当数減少していると思うが、今後の施策も考えていかなければならないと考えるが、現況を聞かせていただきたい。

【福祉環境課長】 弔慰金に対しては、血の繋がった直系の者だったら手続きができるかと認識している。貰えるものは貰う形にしなければならぬと思うので、申請で、こちらの不手際があるのであれば、担当者とも聞

き取りをしながら再調査をしていきたい。

【住民】 メイチュウが非常に多く、サトウキビの穂が取れない状態となっている。対策を徹底していただきたい。

【農林水産課長】 種子島全体で、メイチュウの被害が多くなってきている。キビの基金事業でメイチュウの薬剤の対応ができないのか鹿児島県にお願いしたところである。

【町長】 メイチュウに関しては、今年は酷い状況になると認識をしている。本来であれば、サトウキビの基金事業で早急に対策とらなければならないと要請をしたところであるが、鹿児島県糖業振興会の臨時職員の資金不正取り扱いが問題となり、これが解決しない限り国も基金事業の発動はしないという状況となった。鹿児島県糖業振興会も早期に基金事業の発動の体制作りをしなければならないということもあり、理事長が鹿児島県農政部長であったが辞職し、また監事も辞職して体制の立て直しを行い、国へ要請をかける準備を行っている。メイチュウに関しては、薬剤散布の仕方等を検討しているところであり、糖業振興会とも連携を図りながら検討していく。現時点では、できる限り農家個々で対応していただきたい。

【農林水産課長】 引き続き、事業が採択されるように、問題が解決した後に要望をしていきたいと考える。

【住民】 チンチバックはスミチオンばかりだが、メイチュウはスミチオンでは駄目なのか。

【農林水産課長】 メイチュウの薬剤については、農協からチンチバックの薬剤と混ぜてスミチオンとサンクル、フロアブル、ダックスと混ぜて対応をしていただきたいとのことであった。無人ヘリでの防除については、優良種苗の補助で散布しているので、優秀な苗について病害虫にやられないように対策をとっている。

【住民】 公民館から西海岸に行く町道は、大雨時に、川のようになり畑の土手等も崩れたり、えぐられたり
の被害がある。側溝等の対処をしていただきたい。

【建設課長】 側溝を設置となると、相当な経費がかかることから、昨年度も要望があったため調査をおこなった。再度調査し、側溝に代わる対策を取らせていただきたい。

【住民】 納官地区では、原之里、平鍋、春田集落は、道路の整備が進んでいるが、宝来集落は、整備が必要な箇所が多くある。整備要望をしたいが、その場合集落長を通してしなければならないのか。過去に軟岩敷きがあったと思うが、今もあるのか。

【農地整備課長】 集落長と一緒に現地を確認し、事業化が可能なのか、若しくは町の単独事業で対応できるのか判断させていただきたい。軟岩も各集落に割当は行っている。満足のできる量ではないと考える。

【住民】 昔のほ場整備は、取り付け道路が狭い。現在は、4トンユニック車等の機械が大型化しているので、
改修等で対応できないのか。（国道から増田に行く、宇アキヤスという所）

【農地整備課長】 畑地帯農業整備事業で整備した所だと思われる。現場を確認したい。

【住民】 ほ場整備の取り付け道路が10m程度のみ舗装されているが、奥は砂利道となっているが舗装等の改修はできないのか。

【農地整備課長】 舗装については、平鍋地区は多面的機能交付金を活用できないのか検討させていただきたい。原之里地区は、将来的に舗装の計画がある。今年度は測量を実施したい。多面的機能交付金の前は、農地水という交付金であった。平成26年から多面的機能交付金に代わり、農地水交付金の時代は、長距離の舗装等可能であったが、現在の交付金に代わってからは、施設の修繕・急勾配部分の補修など、そのような箇所に限定されてきた。地元が思うような仕事ができないのが現状である。一方で、就農化対策をする地区であれば、要望をしていただければいいのだが、これについては、国も予算を大幅に縮減してきており、要望しても採択される可能性は、ほぼ皆無な状況である。地道に少しずつではあるが地域活動を行っていただきたい。

【住民】 種子島から澱粉甘藷とサトウキビを取り除くことはできないと考える。もし、サトウキビの減収・減反となった場合、新光糖業も撤退するという話しを聞く。このようなことがあると種子島の農業は大変になる。耕作面積については、西之表市・南種子町を合わせても中種子町の面積ほどはない。1市2町で徹底して増反を真剣に考えていかなければ、これから先の種子島の農業は衰退していく。増反を促すように、西之表市・南種子町にも呼びかけていただきたい。

【町長】 今年、昨年と本町の作付けの減少率が島内1市2町で一番大きい数値がでている。人手不足と農業から離農する者が増加していることが原因である。離農する者には、儲からない・作業が大変であるとの声がある。昨年からの不作であったことを受けて、作付面積の減少に繋がったことも考えられる。実際に、作付け能力は、町内の農家はあるわけで、メイチュウ被害等の問題、大型機械によるほ場（取り付け道路等）の問題、農地の貸し借りの問題も影響していることから、真剣に考えていかなければならない時期にきていることは認識している。様々な情報を収集し、新光糖業とも連携を図りながら対応する。個人的な意見であるが、昔は、勤めに行き日銭を稼ぎ、子どもの学費はそこから、自身の生活は農業収入でという形態が多くいた気がする。そのように勤めに行ける仕事の確保も重要であり、ある程度就業することができ、土日に農作業を行うようなことを考えるときに、私としては、雇用する企業等は誘致していかなければならないと強く思う。

【副町長】 新キビの植え付けは、全ケーシーの植付機が、普及してきており、植え付けについては、大分コスト（負担）の軽減が図られていると思う。

【農業委員会局長】 土地の貸し借りの値段についての農業委員会の対応としては、料金を決定することはできないことから、情報提供という形で行っている。普通畑のほ場整備を行っているところでは、1万円から1万1千円というところで情報提供をしているが、土地に応じた形状の貸し借りの値段を、お互いに決めていただく形が、最も望ましいと考える。形状が悪く、機械が入りにくいような所は当然ながら安くなっており、ほ場整備を実施している所は、貸し借りの値段も高くなるのではないかと思う。弾力性を持った形で、今後は情報提供をしていかなければならないと考える。

【住民】 ハーベスター・トラックが入らない所がある。ほ場整備をしてもらえなかった畑が1町歩ある。昨年、機械が入ると思い18号を2反作ったが、雨天時に機械が入らずに、結局は手切りをした。また、キビの中出しを依頼した際には、道が急勾配であるため積み荷が崩れるとこのことで、結局は、新キビを打ち壊した。キビが作れず、甘藷かジャガイモ等の園芸品を作るしかないため、畑自体も痩せてくるし、輪作ができなくなる。運送会社等に四駆のユニック車でもあれば、キビを作れると思う。

【町長】 温泉保養センター太陽熱利用システム整備事業を計画している。予算的には、議会で議決をいただいているため計上はしていない。経済産業省の補助金を活用できれば議会に上程しようと考えているところで記載している。温泉保養センターはボイラーで沸かしており、年間360万円程度の経費がかかっている。昔あった太陽熱温水器という屋根に乗せるような、そのようなシステムがあり、このシステムを設置すれば、年間費用が150万円程度に収まると言われるので、現在調査を実施している。

【住民】 ニガダケ生産施設整備事業というものがあるが、どのような形で事業は進んでいるのか。竹林は確保できているのか。

【農林水産課長】 事業については、平成28年度から始まった事業である。鹿児島県の振興推進事業の助成金をもらい進めている。地区は、竹屋野地区の竹林を対象にした事業で実施している。本年度については、ニガダケ山の整備、竹林内道路の整備等を行った。ニガダケの販売により地域おこしの一つの材料となればと考え実施したところである。平成29年度についても引き続き同様の内容で、さらに販売拡大を進め、具体的に販売まで行う計画である。一昨日から、職員と竹屋野地区の組合で、東京でのイベントにニガダケのPRを行ってきた。

【住民】 2年前から地域おこし協力隊が始まっているが、納官校区も手を挙げ指名を受けている。後は、納官の協力隊が配置されるだけだが、なかなか配置の決定がないのだが、これはどうなったのか。役場庁舎内に協力隊が1人配置されているようだが、この協力隊の活動内容を教えていただきたい。

【企画課長】 地域おこし協力隊は、地域に入り、校区・地域の活動の手伝いをしてもらおうと、納官校区と南界校区に手を挙げていただき、配置の取り組みをしてきた。平成28年度に募集をかけ、応募者が10名程度、面接を行い採用の内定を出したが、他の市町村への応募もしており、結果的に他の市町村を選択しということもあり、納官・南界校区には、色々と準備をしていただいたが、配置できなかった状況である。引き続き募集はしている。役場庁舎内にある協力隊については、商工観光関係の情報発信の分野の業務をおこなっている。通常は庁舎内に席を置いて活動をしている。次の広報紙でお知らせする予定となっている。また、5月からもう1名、同じく商工観光関係の分野で採用している。役場に2名配置となっているが、地域に配置する協力隊については、引き続き募集をしており、7月に東京・大阪での募集説明会が開催される予定となっているため、そのような場所でも募集活動をおこなっていきたく考えている。なるべく早めに採用し、地域に入ってもらいたいと思っている、取り組みは継続して行っているのご理解いただきたい。

【住民】 西之表市に協力隊が多くいるが、協力隊が西之表市に行き中種子町に来ないというのは何か理由があるのか。

【企画課長】 その点は、面接に来た者に聞いていないのでわからない。西之表市は、街という事、住みやすいという事もあるのかもしれない。給料の面は同じ条件であり、はっきりしたことはわからない。

会議資料

◇平成29年度中種子町行政報告会（納官校区）

平成29年度 中種子町行政報告会【増田校区】

開催日時 平成29年5月14日（日）18:30～20:00

開催場所 ベニーハウス（増田校区公民館）

意見交換

【住民】 各地域公民館やゲートボール場・運動場に補助事業で浄化槽を設置しているが、維持管理の経費が相当かかる。ある地域によっては、浄化槽を止めて汲み取り式にしている校区や地域もあると聞いた。浄化槽の経費（維持管理）は、県内の市町村と比較した場合、中種子町の維持管理費は適正なのか。

【福祉環境課長】 浄化槽の管理費については、県内の状況を把握できていないので、後日調べて報告させていただきたい。

【住民】 中種子町のふるさと納税は、昨年度比（2015）、5.9倍の132百万円ほどになっていると聞くと、ふるさと納税はどのように使われているのか。また、総務省から返礼品を3割以下に抑えるよう通達があったと思うが、それはどのようにになっているのか。返礼品はどのような物があるのか。

【企画課長】 返礼品は、代表的な物として安納いも（生）がある。昨年度は、10千円寄附して安納いも7kgの返礼品を送った。その他、焼酎セット（島の泉と他の銘柄の組合せ）、海産物セット、お菓子類、車エビ（冷凍）、黒豚の肉や加工した物（ハンバーグ等）、パッションジュース、お茶など地元の特産品を使った加工品や農産物を送っている。

【総務課長】 ふるさと納税は、基金条例というのがあり、全額基金に積み立てている。今後、町民に係る大きな事業がある場合に使用する。

【企画課長】 総務省からの通達で高額な返礼品を送らないようにと通知があった。質問のとおり返礼品は3割程度の物に抑えるようにという通達であった。本町の返礼品は元々、3割程度の物であり、この通達があったことよっての返礼品の大幅な見直しは予定していない。28年度の返礼品の中には旅行券があった。これは10千円の寄附をするとその金額に応じたクーポンを送るという物であった。それは来島してもらうための旅行クーポンであったが、国の通達の中で金銭類似性の高い物は、趣旨を反するため返礼品に使用しないようにとのことであつたため、29年度は、このクーポンの取り扱いを辞めた。この通達は、法律で定められたものではなく、国からの通達で各自治体が判断することになっている。

【副町長】 ふるさと納税は、全て基金に積み立て、支払いについては、歳出で組んでいくというやり方。

【住民】 昨年、ほ場整備地区のアンケートがあつたが、古房・郡原地区は、島内で一番始めにほ場整備を実施した地区である。しかしながら、急勾配・作物の成長が悪いなど、様々な支障がきたしており、農業をリタイアする者が増加している。アンケートの結果はどのようにになっているのか。

【農地整備課長】 昨年、土地改良区に依頼し、昭和50年代に改良した地区を中心に、聞き取り調査及び現地調査を実施した。ほ場整備が完了してから30年が経過しており、かつてのほ場整備は急勾配であり、土砂が流出しているということは承知のとおりである。それらを事業化するためにアンケートを実施したとことである。千種原・星原地区も老朽化が進んでおり、一度には無理だが、ほ場整備の再編を図っていきたい。

【住民】 災害に対し、対応してくれるとき、してくれないときがある。平成26年7月の集中豪雨で町道が崩れ、田圃が埋まり収穫不能となった。集落町を通じ、被害の届けを提出したが、建設課から災害基準の金額に満たない旨の連絡があつた。収穫も放棄したところである。数ヶ月後に、別の災害でキビ畑の土手が崩れ同様に被害の届けを提出したところ、農地整備課より対象になると言われた。その際は金額のことは何も言われていない。この対応の差は何なのか。住民にも解るように、どのような基準になっているのか説明していただきたい。

【建設課長】 資料を持ち合わせていないため、後日回答させていただきたい。

【農地整備課長】 災害の基準は、農水省が所管する災害復旧事業は、査定額400千円に満たない場合、災害

復旧事業ができない決まりがある。災害箇所は周囲の状況を確認し、災害原因（道路・排水路等）が何なのか等も踏まえ、できる限り対応できるよう心がけている。応急対応は随時やっている。キビ畑の件については、その道路が農道だったと思われる。そのような箇所は、農業用施設としての取り扱いであるため対応できた。しかし、これも40万円を超す工事費がかからなければ、国の補助事業は使えないため、町で応急処置の対応を行ったと思われる。

【住民】 地域おこし協力隊は、本日はきていないのか。可能であれば、このような場にきていただきたい。校区の雰囲気もわかるのでは。最近、1人（2人目）採用され、活動されていると聞くと、これまでの地域おこし協力隊の具体的な活動を教えていただきたい。

【企画課長】 本町の協力隊については、昨年11月に1人採用した。本町のことをよく知ってもらうために、色々な所・各行事に参加してもらい、地域を知ってもらう活動を行っている。協力隊が見て感じたことをホームページやフェイスブックにも載せている。また、広報紙にも感じたことや感動したことを記事にしている。元々島に住んでいる人にとっては、当たり前なのが、都会の人にとっては感動だったり、珍しく感じたりするものだった。また、東京・大阪の観光PRのイベントに参加してもらい、本町のPRも実施している。2人目は、今月採用した。大阪でテレビ番組の映像制作をしていた者で、映像を使った情報発信が期待できる。種子島は初めてであることから、1人目と同様に、色々な場所に行き、見て感じてもらっている状況である。先日も星原小と住吉小の交流相撲に行き映像を撮影したと聞いている。

【住民】 町長が就任された当初、本町を知ってもらうためには、ホームページなどの情報発信に力を入れたいと言っていたが、現在のホームページを見ると昨年の6月頃のもの、一面の半分ほど占めている。これでは、情報発信にはほど遠いものではないか。今月の行事をクリックしてもこりーなの予定だけである。また、来島者に対しての情報が無い。町長が就任してから情報発信の部分はどのような事してきたのか。

【町長】 現在のホームページは言われるとおり、情報があまり変わっていない状況である。ホームページのシステム更新の予算を議決いただいている。6月に中種子交換局において、光通信のサービスが始まることから、早い段階でホームページの更新、中身の検討、動画のアップも含め検討していく。また、ホームページに限らず、フェイスブックやSNS等の活用を図り、地域おこし協力隊に専門の知識を持つ者がいることから、ユーチューブ等を活用し、情報発信に努めていく。サーフィンのプロ大会も実施予定であり、それらも活用し、種子島の情報、島の様子を映像により世界に発信していきたい。ホームページのリニューアルは、今年度中に実施し、きめ細やかなホームページの作成に努力していきたい。

【住民】 人口が大幅に減少していく中において、Iターン・Uターン者をどう呼ぶかにかかっていると思われるが、それに対してのPR等の情報発信をどのように行っていくのか。

【町長】 Uターン者は、種子島出身者であるため情報は集めやすいが、Iターン者については、こちらから情報発信していかなければ種子島に来てくれない。基本的に種子島は全国的には知られていない。過去には何も知らずに来島した者が数名いる。種子島でできる仕事は、農業の1次産業、他に、資格・技術があれば様々な仕事がある。IT関係のIターン者の呼び込みを視野に入れた事業を行っているので、これからPRしていくつもりである。IT関係者は、牧川出身の牧本先生もいるので、連携を図りながら行っていく。種子島はロケット基地もあるため、ロケット関連の仕事もできないか、様々な角度でPRを実施していく。

【住民】 有人国境により航空機・高速船等の補助があり、町も負担をしていると聞き、大変有り難く感謝している。しかし、鹿児島市に行く場合は、町民の大半がホテルパックを利用していると思われるが、ホテルパックで購入すると安くなっていない。どのようなからくりがあるのか。

【企画課長】 言われるとおり、今までは、船とホテル、別々で購入すると、ホテルパックの方が安く購入できた。法律の施行により運賃低廉化事業が始まり、ホテルパックの値段については、ほぼ変わっていない状況である。これは、行政側から言う部分ではなく、それぞれの旅行会社が料金を設定している商品であり、

その部分については、よく解らないところである。旅行会社は、運賃やホテル代から紹介料という形で数パーセントの仲買手数料をもらい商品として販売しているようであり、船が安くなると、手数料がほぼなくなる仕組みとのことであり、ホテルパックを安くできないとのことであった。

【町長】 今までのホテルパックがだいぶ安かったと思っていただければいいと思う。運賃が安くなったが、今までホテルパックを販売していた旅行会社に対応できていない状態である。そのことについては、行政が指導できるところではない。運賃低廉化は往復の運賃のみの措置である。ホテル代まで見ていただきたいというのは話が違ってくる。旅行会社が今後、どのように対応していくのかである。インターネット等で一番安いホテルを探し、別で予約するという方法もあるので活用すればいかがか。今後、旅行会社も手だてを検討していくと思われる。

【住民】 実際に高速船とホテルを別々に購入した方が安く買えた。高齢者はインターネットを利用しないためできない。船は安くなったが、ホテルパックの差額はどうなっているのか感じる。町としては、言えないかもしれないが、このようなことは、旅行会社に積極的に言っていただきたい。

【町長】 船会社・航空会社は、離島カードで1人1人チェックし、その分を値引いた金額で発券している。値引き部分を行政サイドに請求している状況である。各会社は、手数料も貰えずに手間だけ掛かっている状況であり、さらに余計な事務作業が増えているのが現状である。当然ながら町民の意見は伝えていくが、値段を下げるとは強く言えないところである。

【住民】 増田小学校がラジオ体操で金賞・銀賞と2年連続で入賞したが、あのコンクールは小学校独自で申し込むのか。教育委員会が絡むのか。西之表市が数年前に行ったような町全体でラジオ体操に取り組んでNHKを使った情報発信はできないのか。今年のNHKの予定は決定していると思われるが、今年度、町民体育祭が50周年という節目でもあり、これに絡めてできないのか。

【町長】 こちらからお金を出して呼ぶのではなく、NHKが決定し、来るのではと思う。

【増田小学校長】 コンクールについては、学校独自でコンクールに申し込みを行った。昨年度までいた職員が体育専門であり、それを生かした形で申し込んだ。今年度来た職員にも、その伝統が引き継いでいける部分があればと考えているところであるが、そこについては、子どもたちと話しをした上で、せっかくできた伝統というのもあり、3年続けてきて貰もいただいたことから、子どもたちの意見も聞きながら前向きに取り組んでいきたいと考えているところであるが、無理矢理やらせることのないように、子どもたちと話し合いをしながら進めていきたい。

【住民】 増田の中之町集落に限る問題だが、水道事業が1年遅れであるが、今年度終了するのか。貯水路の切り替えができるのか。

【水道課長】 水道の整備事業は、配水路整備事業であり、今年度は、中之町・向井町の配水管の設置メーターまでの工事を実施する予定であり現在作業中である。7月頃に入札、着工し、12月末頃を工期と考えており、12月中に完成を目指している。その後、1月から2月に通水という予定である。

【住民】 宿泊施設の問題で、トイレはきれいか、風呂場はきれいか、特に女性が気にするところであり、宿に泊まるときに一番の基準なると思う。島で安心して泊まれたという感じがなくよく聞く。あの宿に泊まればきれいで良かったと思われるような努力をするように、観光協会・商工会等と連携しながら指導をお願いしたい。

【町長】 宿泊施設関連の意識を変えることが大事である。商工会・観光協会にも指導を行っているが、なかなか進まない状況である。今後も根気強くお願いをしていく。

【住民】 増田の山の管理が困難となってきた。今まで管理を行ってきた方々が高齢となり、山に入れず場所などを知っている者が少なくなっている。地籍調査は、3年先だと聞いている。町が提供できる情報を出していただきたい。

【農地整備課長】 地籍調査については、現在、新種子島空港の滑走路の西側（牧川方面）を3年間で実施している。来年度まで同じ地区を予定しており、その後に牧川・納官地区を予定している。そこが終わると増田地区に入る計画となっている。国土庁の予算も随分カットされおり、何年に増田地区に入ると正確には言えない状況である。ただ、西側が終わると増田地区に入るとことは確かであるため、その辺は理解していただきたい。

【住民】 山の中に民有地があったりするので、その情報などは提供していただけるのか。

【農地整備課長】 法務局の旧字を航空写真に載せて町に提供しているので、国が出版した情報は随時提供したい。

【住民】 女性活躍推進法において、中種子町は鹿児島県の中でも女性管理職が低いとなっている。昨年、町長にも質問したが、その後のスキルアップの教育は実施しているのか。また、役場の新任職員の教育システムは総務省の地方公務員法に沿って教育されていると思うが、どのような教育をしているのか。

【総務課長】 現在、町外に派遣されている職員が6名、中種子町内に137名、合計143名である。女性管理職は、0人であるが、決して女性だからという理由ではなく、能力を見極め人事は行っている。職員の教育については、初任者においては、鹿児島県の研修所で1泊2日の基礎研修を行い、その後は、係長研修・課長研修を行う。それぞれの所管課長からも指導を行っている。

【住民】 民間企業への体験実習は行っているのか。

【総務課長】 現在のところ実施はしていない。

【住民】 コスモスというドラッグストアができたが、そこに勤務している従業員の接客対応を見たことがあるか。感じが良い。我々も納税者であり、納税者を大事にする教育も必要では。

【副町長】 昨日も指摘を受けたところである。今後、町長を中心に教育を行っていく。指摘を受けたことについては、職員指導もしっかりやっていく。

平成29年度 中種子町行政報告会【野間校区】

開催日時 平成29年5月23日（火）18:00～19:30

開催場所 中種子町中央公民館 小会議室

意見交換

【住民】 予算の配分は全体的にしているのか。重点的にしているのか。

【町長】 予算を編成する中で当然カットする部分はカットし、やるべき部分は力を入れて編成している。ただし、地方債の配分、税収を絡めながらのある程度バランスの取れた配分をしたつもりである。ここ2～3年予算規模も膨らんできているところもある。それについては、国県の補助金等も入ってくることを見込んでおり、積み上げをし、予算の編成を行っている。

【住民】 事業を進めていく上で優先順位を付けていると思うが、どのようにしているのか。

【町長】 福祉関係でどうしても使える予算の比率が限られている。その中での優先順位を付けての対応となっている。

【住民】 農業振興における畑の基盤整備だが、機械も大型化しており、機械に合わせた農地整備を行う計画はあるのか。

【農地整備課長】 昭和40年後半から50年代半ばまではほ場整備を実施してきた。かつては、小型機械（耕耘機等）の時代が長く続き、現在は大型化が進んでいる。畑の急勾配もあり、そのようなところも含め、区画の再編を行う準備をしている。昨年は、千草原地域のアンケートと現地調査を行い、どの程度の劣化が進行しているのか調査した。今後もほ場整備が実施されたところから順次調査を行い、将来的に大区画も含めた区画整備の再編に努めていきたい。

【住民】 温泉保養センターは、様々な使用料があると思うが、現在はどのようなものがあるのか。

【福祉環境課】 源泉使用料は60万円である。あとの使用料については後日回答する。

【町長】 温泉保養センターの源泉使用料は過去から続いている。源泉をボイラーで沸かすだけで年間370万円～380万円程度かかっている。国事業で対応できないか検討中であるが、太陽熱の導入を行い、この経費を半分にできないか調査を行っている。また、熊野干拓地が荒れているので、その辺の整備を含め、源泉の調査も必要だろうと考える。

【住民】 平成29年度重要施策事業の「医療・介護・福祉の充実」に公立種子島病院のことが書かれていないが、どのようになっているのか。この問題は大きな問題ではないか。このような大きな問題はどのようになっているのか、町民に知らせるべきではないのか。

【町長】 公立種子島病院については、建設当初から償還していく事業費があり、年間3,700万円程度負担している。それ以外に運営上必要な金額を負担している。負担する金額は毎年違ってくる。実際に運営上の累積赤字は6億円程度である。一般財源からの繰り出しが50,000万円～60,000万円が必要となっている。大きな問題と認識している。仰せのとおりである。

【住民】 災害マップは、各市町村枠が別々だが、種子島を統一した災害マップはないのか。また、作る計画はないのか。種子島は一つの島である。災害マップが市町で別々だと、他の市町にいた際に災害があった場合など対策が取れないと思うが。

【総務課長】 現段階では計画はない。1市2町で協議しながら進めていきたい。

【町長】 例えば、津波が発生したときに、野間地区で言うと、下田・大牟礼、それから星原校区・岩岡校区など、場所によって避難方法・高齢者の在宅状況など、消防団と連携を図りながら詳細なものを作成する計画を持っている。その辺を隣接する市町と摺り合わせていく必要性はある。

【住民】 4月14日に「種子島の歴史の紹介」という全国放送があったが、他の市町は取り上げられていたが、本町は全然放送されずに非常に残念だった。そのように感じた住民は多くいたと思うが、皆さんはどのように感じたか。魅力あるまちづくりに取り組んでいかなければならないと思うが。

【町長】 本町だけでなく、種子島全体で考えていかなければならない。本町だけでは通用しないと感じており、それぞれの市町の良いところを評価しながら島を盛り上げていかなければならない。本町は空港があり、種子島の空の玄関口であるため、PR活動も実施しており、これから先、メディアに露出してくることも多々あると思うところであり、皆さんの意見等も聞きながら進めていきたい。

【住民】 旧空港跡地の今後の計画はどのようになっているのか。

【町長】 旧空港跡地は県有地である。鹿児島県は今のところ有効利用の計画はない。ただ、本町議会は自衛隊の誘致を議決している。防衛省の中期防衛計画の見直しが平成31年にある。それに伴い旧種子島空港で何らかのことができないか検討する。自衛隊誘致は、国策であり詳しい情報はない状況である。

【住民】 5月の連休は雨が続き飛行機の欠航が多かった。そこで新空港に自衛隊を誘致して、旧空港を再活するという運動をしてもらうことはできないか。先日、防衛省か、わからないが、来島して、1市3町の会議があったと思うが、その時にあった話しをできるのであれば聞かせていただきたい。

【町長】 種子島空港を旧空港に戻し、現在の空港を自衛隊に、ということだが、これも県の施設であり、町が勝手に自衛隊へということとはできない話しである。確かに飛行機の欠航は多く、観光にとってはデメリットである。このことから、国土交通省へ要望している「カテゴリーⅢ」といものがある。これは計器で飛行機を着陸させることができるものだが、九州では福岡空港・熊本空港及び鹿児島空港に設置されている。100億単位の金額がするものであり、これについては難しいとの回答をもらっている。旧空港に民間機に戻すことについては、空港整備は国策でもあるため困難と思われるが、島の交通の不便さを訴え続けていきたい。これについては、個人的意見は控えさせていただく。馬毛島問題対策協議会は1市3町で構成されている。存じていると思うが、本町の議会と南種子町の議会は以前に離脱をしている。協議会は、馬毛島に米軍機の訓練施設、それを使用する自衛隊の設備誘致に反対するというスタンスであったため情報収集ができなかった。公平中立の立場で情報を収集し、町民に対し、その情報を明確に伝えるという観点から両町議会は離脱をしている。先日、その協議会の会議があった。秘密会であり、内容については言えないが、会議終了後に西之表市長（会長）の発言については、協議会としては、公平中立な立場で、情報を収集し、住民へ広く伝える必要性があるとのことであった。

【住民】 種子島空港は、建設当初から霧が深いということでは言われていた。鹿児島県にもそのことを要望していたが、空港が完成すると気象状況も変わるとの一点張りであった。結局、完成後も霧が多く欠航が相次いでいる。県の仕事とはわかっているが、町長には、旧空港に戻すよう強烈的な運動をしていただきたい。

【町長】 現在、種子島～鹿児島間が1日3便運行しているが、年内には4便体制になる予定である。ATRという新型機が就航し始めており、種子島に就航するのは10月か11月になる予定である。現在運行している機種は飛ばなくなるため、埋め合わせとして4便となる。座席提供数は変わらないが便数は増加するとの情報は入っている。

【住民】 光通信がようやく開通したわけだが、現在、女性など会社に出勤し仕事を行うという形が崩れてきており、自宅で仕事をする者が増加してきている。世の中の仕事のやり方が変わってくると思う。これは種子島においても一緒。町長の時代に日の目を見て本当によかった。時代の流れであり、これから働き方も子育てをしながら仕事ができるような時代になってくると思う。人口減少に伴い国の政策も、子どもを生んでも仕事ができるようになってくると思う。本当に良かったと思う。

【町長】 働き方という観点から見て、大半の者がパソコンとかの機材を持ち始めている。いろいろな仕事の広がりが出てくると思う。しかし、それらを仕事にできなかつたりすることもあるので、牧川出身の牧本

先生とかニアショアIT協会等の組織と連携を図りながら、IT関連のビジネスチャンスはないか模索している。今のITの話したが、本町は農業の町である。農業の法人化に向けて二の足を踏む一つの原因が経理の問題がある。ネットを利用したシステム環境が整備されていけば、法人化に対する経理事務に抵抗がなくなり、農業法人化が進むと思われる。

【住民】 本町の総人口が、8181名、世帯数4346戸となっているが、そのうち農家や農家関連の世帯や人口はどのくらい割合か。本町も含め、島内全体の農家減少、後継者不足と高齢化の進行が増加している中で、第一に後継者育成の対策をこれまで以上に取り組んでいただきたい。人口減少に歯止めということに重きをおいて考えていただきたい。

【農林水産課長】 平成27年度の農林業センサス資料によると、農家戸数が1017戸である。概ね全体の4分の1が農家戸数となる。農家人口は、2408人である。

【町長】 担い手も含め、対策は何か、一言で言うと農業の兼業だと思う。30年前には、農業していた者達が私立大学等に出せたのは、日々の生活費は農業で、子どもにかかる定期的なお金は、日雇いで稼いだお金で、というイメージがある。農家が週5日は勤めに行けるような企業誘致が最大の効果をもたらすと思う。そのようなことも含め、自衛隊の誘致等も大事になってくる。

【農林水産課長】 後継者不足対策は難しい問題である。サトウキビにしても高齢で辞めていく者が毎年増加しており、後継者不足を解消していかなければならない。様々な対策を講じているが、国の就農に対する交付金もあり、5年間に渡り年間150万円もらえる。このような制度も紹介しながら対策を行っている。平成20年からの新規就農者を調査すると、27年度までに35人が就農している。後継者対策は、大事なことであるため根強く対策を講じていく。高齢でも農業を続けられるよう受託関係も推進していく。機械の導入事業もあるため、担い手農家には機械導入してもらい高齢農業従事者対策も講じていきたい。

【住民】 熊野キャンプ場の整備を行っているが、前教育長との話の中で、現在、グランドゴルフ人口が増加しているため、アップダウンのあるコートを整備したらという話しをしたが、その後どのようなになっているのか。

【町長】 今年度の整備事業において、レクリエーション村の奥の整備を予定しており、グランドゴルフのできる広さが取れる計画をもっている。グランドゴルフ場という計画ではないが、多目的広場という計画で進めている。また、熊野干拓地の整備を行わないと思う。熊野神社など景観の良いところであり、この辺を整備し、多目的広場として有効利用できるシステムがないか検討している。グランドゴルフやサッカー・野球もできるような広場としての活用ができるのではないかと。スポーツ合宿において、施設がかぶり、増田追跡所まで行ってもらったりしていることからグラウンドが不足している状況である。水害等でも影響がないような芝・施設であれば良いといことであり、何か事業化できないか検討している。高齢者の健康作りにも活用できないか検討している。

【住民】 昔に戻り、埋め立てた土を真ん中に盛り、海水を入れ熊野神社からアーチを造り、県道に渡すという発想はないのか。（熊野干拓地）

【町長】 防災の観点との調整になると思う。土が足りないと思われ、あちこちが凹んだり盛り上がったたりしている状態であり、平らにするためにも池という対流ゾーンが必要だとのイメージはある。優先順位として、予算化して、どの程度の規模で、どのように持っていくのか、どの程度の財源が必要になっていくのかなど加味しながら進めていく事業である。現時点、アーチ・池など検討するまでにいたらない。

【住民】 公立病院のようにならないよう、しっかり検討して事業を進めていただきたい。

【町長】 公立病院については、南種子町長が管理者、南種子町副町長が副管理者となっている。公立病院議会もあり、その中で議論もするが、当初、医者・看護師と話しをしたことがなかった。まずは話しをする場を設けていただき、考え方など話しをする中で、医者は3人体制で行っているが、やはり3人では不足していること。一日中診察を実施するのであれば、入院患者や介護施設への問診など業務がおろそかになるため、午前診療でお願いしたいとのことであった。現在、午前診療で迷惑をかけているが、午前診療ではしっかり

診るとのことであった。但し、午後も緊急の患者等に対応するということであり、医者1名が待機している。他の2人については、入院患者や施設の間診などの診察を行っている。赤字であるということで、必要な物を購入していない状況であった。機材等も壊れている物もあり、そのような状況であったため必要な物は買うように指示をした。病院である以上、適切な診療をするべきだと話したところではあった。医者・看護師と話していく中で、色々な問題点があった。それらを改善すべく動いているところです。病院への受診率は、本町民は2割から3割程度であるが、多くの負担金を支払っている。しかしながら、公立病院というところは、赤字でも運営していかなければならない。利用する者が気持ちよく利用できる環境の整備と赤字だから何かに突っつくのではなく、みんなでこの病院を守り育てていくという気持ちが一つにならないと本町民は説得できないところがあると、南種子町長には話している。少しでも利用してもらい利用すれば利益も上がってくるので、医者とも話しをしながら進めている。医者の充足も懸命に動いており、状況としては良い方向に転換しているのではないかと考えている。今しばらく辛抱していただき、また利用してもらえれば良い方向に向かっていると考えます。

【住民】 公立病院だけではなく、医者は全体的に不足している。行政と医者との意思疎通があまり見られなかったのでは。現在まで色々なトラブルもあった。その辺が一番の問題であり、医者と交流を持つのは重要だと思う。医者の確保は大変だと考える。

【町長】 可能性がある限り、様々な策を打とうと動いている。医療というのは、これから先、高齢化も進行するため末期医療等、色々なことを考えていかなければならない段階にきていることも含めながら、慌てることなく、先を見据えながら、負の遺産をプラスの遺産に転じていけるような意識を持って対応していきたい。南種子町の管理者とも連携及び協力を図りながら進めていきたい。

【住民】 半分を老健施設にしたらどうか。

【町長】 高齢者は、痴呆が入ってくると元気であっても介護が必要となる。介護する者についても、仕事・畑等に行くことができないなどの状況がある。ホスピスとか老健施設も含め、町になるべく負担がかからないよう事業を進め、関係機関とも協議しながら検討していく。

【住民】 自衛隊が本町に来るためには、馬毛島問題が解決しないと来ないという噂を聞いたがどうなのか。

【町長】 情報は一切入っていない。正確な情報は国家議員数名に確認したが、国策のため、おそらく内閣官房でしか解らないと思う。

【住民】 奄美に自衛隊が来ており、大変活性化していると聞く。本町もアピールすべきではないか。本町は賛成するのかどうなのか、自衛隊が来ると言うことはオスプレーも当然来るわけだが、旧空港は種子島中央高校が近すぎるため、やはり新空港と旧空港を交代した方がいいのではないか。

【町長】 新空港は利用促進・交流人口拡大など、色々と考えていかなければならないところだが、自衛隊の本町誘致という事では動いていきたいと思う。馬毛島問題に関しては、西之表市の行政区域ということもあるのですが、我々があまり言い過ぎると問題があると思われる。馬毛島問題対策協議会の流れがどのようなものか注視しながら慎重に対応していきたいと考えます。

平成29年度 中種子町行政報告会【油久校区】

開催日時 平成29年6月5日(月) 18:30~19:50

開催場所 向町公民館

意見交換

【住民】 ほ場整備がなされ、昔よりは良くなっているが、農業機械の大型化が進む中で、10反²の区画、取り付け道路の狭小、雨天時には通れない急傾斜があり、不便な面が出てきている。大型機械に対応できるほ場整備を再度やり直していただきたい。

【町長】 可能な限り、農家の皆さんの理解を得られるよう、ほ場整備は進めていく必要があると考える。

【農地整備課長】 本町では、昭和40年代後半から昭和50年代半ばにかけ、県営のほ場整備が約900畝、千種原・油久・野間の中央区・坂井の長野先など大きなほ場整備事業を行っている。その後、20~30町歩、50町歩と整備がされ、現在1600畝程度の整備がなされている。昔のほ場整備は急勾配な部分もあり、区画が一反近くあり、広いところでは、5反~7反というところもある。総合的に見て、その当時は配分の仕方も色々あり、小規模の用地もある。そのようなことから、過去に県営で大がかりに行った、ほ場整備を中心に再建を考えている。国が1枚の区画を5畝以上と言っているが、地形によっては5反から1町近くというのもできてくるのではないかと思う。そのための調査を今年度より始めている。事業に取り組む時期は、未定ではあるが、ほ場整備の再編を考えている。

【住民】 遊休農用地の拡大の歯止め対策をしてほしい。

【農地整備課長】 遊休農用地、いわゆる耕作放棄地の解消対策は国の事業がある。そのような希望があれば、事業として再整備を行い耕作できる土地にすることが可能である。認定農業者及び認定農業者が借りた土地という条件もあるので、条件をクリア出来るようであれば、自己負担もあるが、そのような事業で対応ができる。

【農業委員会局長】 毎年、農地の利用状況調査を行っている。これは、農地が遊休化・荒廃化していないかを農業委員と地域の協力員の皆さんと一緒に年1回調査を実施している。農業委員会で、遊休化している農地と判断すると、土地の所有者に「あなたの農地は、このような状態で荒れてきているが、どうされるか。」という意向調査を実施している。本来なら遊休化している土地が減少していかなければならないが、生産性の低い農地、鳥獣被害がある農地については、借り手が見つからない状況がある。その歯止めがきかないが、昨年からは遊休化した農地について、農業委員から「あなたは誰かに土地を貸すなどして、何とか手段を取ってください。」ということで、その意向に添わないと課税が強化されるようになっている。遊休農用地に関しては、1.8倍、通常の課税については、評価に対して0.55をかけ、農地は安くしている。遊休化した農地に関しては、今後課税も強化されるので、周知されていくと、遊休化した農地も減少してくると思うところだが、昨今の後継者不足・就農者の減少で借り手がない状況である。

【町長】 耕作放棄地となるということは、道沿いの車や機械が入りやすいところは、あまりないと思う。道路から見えない農地、車・機械が入りにくい農地、畑の所有者が高齢で貸したいが借り手がない農地から先に荒れてきているように感じる。対策として、ほ場整備ということになるが、人に貸すためにほ場整備をするお金は出せないという者が、今後多くなると思われるので、個人の負担金をどうしていくということも含め、法の改正も国が検討しているところであり、田舎の農業の厳しさは、国等にも情報発信し、少しでも改善されればと思っている。11月には、国が方針を決めてくると思う。

【住民】 健康保険料と医療費の支払額、割合について。

【町民保健課長】 後期高齢・国民健康保険とともに所得に応じて、1割負担、3割負担の者がいる。所得が多い者については3割負担である。制度が色々あり、負担限度額を超えた場合は、高額医療で払い戻しをするといった制度である。そのようなものを活用して負担を抑えていただきたい。

【住民】 キビの増産事業にかなりの補助事業の執行をいただいている。ここ2～3年単収が5トﾝ4トﾝという形で事業費を投入している割には、農家は苦勞している。なかなか単収が上がらない。新光糖業の操業日数も少なくなり、安定した体制が維持できない。種子島の大きな課題である人口減少、キビの収穫量の減少により安納いも等への生産へ代わりつつある。町長もキビ振興会会長でもあるので、地域・全島で、生産者の意識を高める上で施策を打っていただきたい。

【町長】 新光糖業の社長からも、今年は7トﾝを超える予定であったが、中種子町が7トﾝを超えないと他が追従しないと言われており、様々な施策を打ってきた。農家の意識も高めていくために、単収の差を無くしながら、少しでも底上げしていかなければならない。品種の改良、新品種、今まで奄美大島・沖縄で作っていた品種の研究も早急に実施しないとまらない時期にきている。新光糖業や役場農林水産課、鹿児島県糖業振興会を含めた中で、早急に取り組んで行かなければならず、まだまだ数字として上向きになりきれていないところで、歯がゆい思いを新光糖業や農家もしていると思う。

【住民】 油久小学校下の町道の改良について。

【建設課】 町道の拡幅工事については、なかなか厳しい面がある。計画には入っていない。

【住民】 光ブロードバンドが導入されたことにより、本町の5年先10年先の未来はどうなるのか聞かせていただきたい。

【企画課長】 福祉分野では、一人暮らしの高齢者見守りや安否が確認できるシステムがある。テレビ電話に繋がれば、保健師等が事務所にいながら、各高齢者の世帯と回線を結び、日々の健康状態の確認ができる。福祉については、様々な使い方があると考える。教育分野は、過疎地の多くは小規模学校・複式学級となっている。複式の対策の一つとして、インターネットを使い、他の学校と一緒に学習することが可能となり、他の学校の児童というバーチャルのような使い方、小規模校にいながら他の学校との交流が可能になる。農業分野は、GPSを利用した水田の水管理、温度センサーを使い、知識が無くてもデータで温度管理できる仕組み、有害鳥獣被害対策など光回線を使って可能になってくると考える。後は、行政として何を優先して予算を付けていくのか課題であり、どのように活用していくのか、色々な分野で検討していきたいと思う。

【住民】 町民の葬式に町長が出席しているが、町長の都合が悪いときは、副町長・教育長・課長等が出席している。公的な時間を割いて町長が葬式に出席しなければならないのか。弔辞を送るだけでいいのでは。

【町長】 「仕事を優先すれば」という声もあるのも事実である。私も踏み切れないところがあるが、公務優先で出席している。誰も行けない場合は、私が通夜に、通夜も都合が悪いときは、葬式の前に拝みだけさせていただきます、公務に支障がないようにしている。

【住民】 本町には、救急病院がない。自分の親も3年前に倒れ、救急で田上病院まで1時間程度かかった。本町はスポーツ合宿の誘致も行っているが、ケガ等した際に行く病院がないと聞く。可能であれば、町内及び公立病院で急患を受け入れることができればと思う。

【町長】 救急病院への搬送時間が1時間以上かかるというのは、県内及び全国でもある状況である。5分、10分に対応できれば助かったのというような案件が多くあり、現在は救急車に救急救命士の資格を持つ隊員が搭乗するようになっている。一時的処置というのは、ある程度対応ができる状況になってきており、搬送中に種子島医療センターと患者の状態等、連絡を取りながら搬送している。公立病院の医師不足は存じていると思うが、これに向けては、公立病院はどうかしないとならない気持ちはあり、一生懸命考えているので、もう暫くお待ちいただきたい。本町に住んでいて、ケガしたり具合が悪くなった時も安心できる、まちづくりのために重要だと思う。

【住民】 社会体育の振興について。

【社会教育課長】 昔は、人口も多く、競技人口も多かったため活気があった。現在も若い者もいることはい

るが、競技種目も色々あり分散されてきた。昔は、町内で多く集まっていたソフトボールも、今は、ナイターで行っても出場は数チーム程度である。体育振興については、それぞれ競技部の加盟団体で実施しているが、若い人にカツを入れろと言われても、参加の呼びかけをしても、好きな競技には参加するが、そうでないスポーツに関しては参加しないなど、スポーツの得手不得手もあるので難しい。

会議資料

◇平成29年度中種子町行政報告会（油久校区）

平成29年度 中種子町行政報告会【南界校区】

開催日時 平成29年5月19日（金）18:30～19:50

開催場所 本村児童館

意見交換

【住民】 55歳以上の高齢化率というのは、普通65歳以上なのでは。何を元に55歳以上なのか。

【企画課長】 一般的に高齢化率というと65歳以上だが、これから10年を見据えると、55歳以上が65歳になるという、参考資料として55歳以上の数字を掲載している。

【町長】 中種子町の高齢化率とは聞かれると、一般的に37.2%と答える。あくまでも参考資料である。

【住民】 サトウキビについて、最近メイチュウ被害が多く、今年の収穫時期から、その先の株出し等に影響があると思われる。具体的に対策を考えているか、早急に対応を進めていただきたい。

【農林水産課長】 言われるとおり、メイチュウの被害が増加している。単収向上に支障をきたしている状況であり、先月よりチンチバックを含め、メイチュウの防除を呼びかけている。町としては、事業化できないか検討しており、いわゆるサトウキビ増産に向けた基金事業で取り組めないか鹿児島県に要望している。これについては、鹿児島県糖業振興会が事業の発動を行うが、その職員の横領事件が発覚し、国からもこの事件が解決するまでは基金の発動はできない旨の通知があったところである。事件解決後に再度要望を行っていきたいと考えているため、その間は農家独自で対応をお願いしたい。また、優良種苗の補助については、無人ヘリを使用しての散布を実施しており、農家に良い種苗が供給できる取り組みは、引き続き実施していく。

【住民】 ここ2、3年、役場の戸籍係に行って、いい思いをして帰ったことは1度もない。様々な考えがあり、女性を配置していると思うが、男性職員の対応で嫌な思いをしたことは1度もない。女性職員全て対応が悪いとは思わないが、戸籍に男性職員の配置をお願いできないか。

【町長】 職員は頑張っているが、町民に対する説明の仕方、思いやりが不足することにより誤解を招いていることがあるかもしれない。指導はしていく。現在は、男性女性と言えない時期であるため理解いただきたい。

【住民】 みどり事業は、客土に対する使い方ができないが、農地が水で流れ、客土をしなければ耕作ができない状況があるため対応できないか。中間管理事業を実施している集落はいくつあるのか。関連して管理組合はどれぐらいあるのか。

【農地整備課長】 農地維持の関連から、災害時のある程度の部分の補修は可能であるが、どれくらいの規模なのか、畑が連続しての流出状況もあるため、鹿児島県とも協議をおこないたい。現段階では、災害時の小規模の応急処置は可能だが、その辺を含め鹿児島県と協議を行う。6月後半に町全体の説明会を計画しているので、その時に回答できると思う。長寿命化については、国も予算を絞り始めており、今年の新規採択はなかった。これは全国的・多面的に交付金を受けようとする地域が多くなっており、国としても予算を圧縮している状況である。その中で、農地維持部分については、採択地域を伸ばしたいという国の思惑がある。一方、長寿命化については、相当事業費がかかるため、そこら辺は国も抑えにきている。今年度、三浜地区が終わり、現在、下田と中山地区の二つである。多面的機能事業の全体は、昨年までは22地区、今年は2地区増え、24地区でスタートすることになっている。

【農林水産課長】 中間管理事業に取り組んでいる集落だが、地域集積の協力金を貰っている集落ということではどうか。

【住民】 農地の集約化を図るには、中間管理機構を利用しないと思う。

【農林水産課長】 集落で取り組んでいるのは、山口氏、管理組合については、浜津脇集落と宝来集落。

【住民】 中間管理事業は、自分たちの農地を集落に集約するという非常に良い事業である。もう少しPRしたら、皆さんやるのでは。

【農林水産課長】 何らかの形でPRは必要だと考える。

【住民】 中種子町戦略産品輸送支援事業の海上輸送費の助成とあるが、どのような形で助成されるのか具体的に教えていただけないか。

【農林水産課長】 農協に出荷している物は、農協でどこの生産者が、どれだけ出荷しているか把握できるため、月ごとに数値等を取り、年度末3月に集計し国に報告する。海上輸送費に8割(国・県・町)の補助があり、個人負担は2割程度で済むことになる。これは全て年度末での精算となる。農協出荷分だけではなく、個人販売も同様となる。申請は、各運送会社からの領収書及び関係書類等を年度末に提出し申請を行うことになるが、現在のところ国からの申請書類関係は示されていない。わかり次第広くお知らせする。今回の助成金は、海上輸送の荷捌き料等も対象となるが、宅急便関係は、海上輸送分運賃のみは提供しない可能性があるなので注意していただきたい。

【住民】 なぜ、中種子町にはファミマ(コンビニ)がないのか。塩屋の古元たける君という方が、漫画家デビューをしているが、町も何かしらの協力をすべきでは。

【町長】 あくまでも1企業であり行政が要請活動はできない。現在ある大型店舗に対しても要請活動はしていない。当然のことながら地域にある大字の商店をなるべく利用していただくという観点で、商品券事業を行っている。ファミマ(コンビニ)ができないのは何故かということは、行政でなくコンビニ本社に聞いていただきたい。

【企画課長】 町の出身者が様々なところで活躍しているので、その方(古元氏)だけに限らずPRは必要と考える。アニメの話だと「秒速5センチメートル」「ロボティクスノーツ」とか、観光のパンフレットに使わせていただいている。それらは著作権の関係があるが、町出身者の作品であれば協力も得られると思われるので、そのようなところでPRをすすめたい。

【町長】 出郷者で漫画家の古元くんに限らず、起業家の皆さんなど活躍されている方が多くいる。ふるさとの納税を多くしていただいている方など、こちらも接触回数が少ないと感じている。そのようなところを対応していきたい。

【住民】 観光担当の地域おこし協力隊を配置し、様々な分野で活動してもらおうという話したが、地域おこし協力隊の採用は今後1名なのか。

【企画課長】 現在、地域おこし協力隊は、商工観光分野で2名採用している。今後、2人目を広報紙で紹介することとなっている。集落・校区に住んでもらい、地域おこし、情報発信分野については、予算上2名分の確保をしているが、なかなか応募がないところである。現在1名が申し込みをしているが、面接の日程が取れない状況にあるため、その者が採用になるかわからないところもあるため、2名予定しているが、いつ配置できるか報告できない状況である。

【住民】 農薬や殺虫剤を散布する場合は、大半の方が水道水を使用していると思われるが、水道水には塩素も入っており、効き目が十分ではないと考える。西之表市は、農業用水の汲み場が数カ所あるが、本町も計画はないのか。

【農地整備課長】 現段階で計画はない。水田ほ場整備を行ったところについては、農業機械を洗車したり、農業用の水を汲む施設が設置されている。可能な限りほ場整備等の事業を活用しながら、整備していきたいと考えているため、具体的に農業用の目的で建材することは考えていない。

【副町長】 牧川・浜津脇・中之町・秋佐野・中山・納官浦にある。

【住民】 南界校区には、どこにもない。

【農地整備課長】 満足山地区にサンシャインの施設がある。満足山まで汲みに行けるのであれば、サンシャイン地区に相談をする。

【副町長】 南界校区に水田のほ場整備が計画されているが、この中には計画等はないのか。

【農地整備課長】 塩屋方面・熊野方面にほ場整備の計画はあるが、現在のところ汲み場等の計画はないが地

元から要望があれば、落差のある場所は可能と思われる。いずれにしても、各地区がパイプラインではなく、U字溝による水路の配分となっていることから、できるだけ落差を見ながら道路の中にパイプを敷設し導水するようなことは考えられる。

【住民】 連休に屋久島に行ったが太陽丸での運賃の割引がなかった。離島割引の適用はないのか。

【企画課長】 もともと太陽丸は国の別の補助を受け運行している。しかしながら屋久島から口永良部は割引が適用されている。屋久島町がそのような仕組みを国へ申請している。種子島から屋久島間は申請していない。

※報告会終了後に説明（種子島～屋久島は運賃低廉化事業の交付金に適用するが、屋久島町が運行事業所であり、この区間は申請していない。今後、屋久島町には要望はする。）

【住民】 ハーベスター刈り取り料は、農業公社の正常化を図るため、値上げをしてきたところであるが、6,000円を切る程度の料金にできないのか。町長は、農業公社の理事長であることから、その料金調整はどのように決定しているのか。

【町長】 ハーベスター刈り取り料は、就任当初から課題として議論されている。当然ながら生産組合も努力をしているが、ハーベスター事業は、精脱もあり、トップ落としをしている者は、刈り取り料以外に人件費、精脱を利用している者は、刈り取り料以外に施設利用料というような状況で、刈り取り料6,300円～6,400円、精脱料として、2,300円と認識している。精脱事業者も機械の維持補修の経費で苦労しており、下げるとなれば刈り取り料の値段を下げる方向になると思う。生産組合がハーベスターだけでなく、精脱用施設を所持している組合は、下げるのは困難だと考える。今度、協議会の役員会が予定されている。生産組合と農家で十分協議する機会を設け、議論した上で、必要性があれば料金改訂を行う作業に入りたいと考える。就任する前に1度、前町長（川下氏）が不作に対し保証金という話があった。収穫・収量が減り、糖度が下がった場合の対応については、刈り取り料の適正価格を調査し、保証金等の検討をしていく。刈り取り料は、生産組合が集まり決定していくことであり、農業公社の理事長が決定するものではないのでご承知いただきたい。

【住民】 生産者が入っている協議会か。

【町長】 生産者を入れる必要があると言っている。ただ、ハーベスター生産組合は年間の管理も含め、下げるところは下げており、そのトータルで下げられないか検討していることも聞いている。

【副町長】 2～3年低単収が続いた際に、単収5トン以下の場合は、追加料金を徴収することになっていたが、生産組合側も、それは良くないということで、追加料金を徴収せず、刈り取りを行ってくれた経緯がある。生産組合も努力はしている。

【町長】 増反を推進していく上で、双方の理解が必要である。刈り取り料が払えないため耕作を辞めることも問題であるし、刈り取りを行ってくれる生産組合も必要であるため、お互いに建設的な意見の中で料金設定ができることが、一番良いことである。その検討に入るよう指示は行っている。

【住民】 ニガダケ生産施設整備事業について聞きたい。

【農林水産課長】 平成28年度より始まった事業である。地域に眠っている資源を有効活用し、地域の活性化に繋がれいか検討したところである。竹屋野集落で組合を発足させ事業を開始した。昨年度については、東京・大阪の出郷者会を通じPR活動を実施し、竹林整備、道路整備、収穫しやすい環境づくりを行った。平成29年度は、東京の飲食店へPRを行い、契約も取り付けており、商品を発送し収入も得ている状況である。初めての事で、手探りの状況で事業を進めているところもあり、組織作りもしっかりと行い、資源を有効活用しながら、島外での小売りも含め、生産販売・販路開拓を現在進めている。

平成29年度 中種子町行政報告会【岩岡校区】

開催日時 平成29年5月16日（月）18:30～19:40

開催場所 屋久津公民館

意見交換

【住民】 離島カードは、ホテルパックに適用できないとあるが、大半の者は、ホテルパックを利用しているため適用されないと意味がない。今のままでは、ほとんどメリットはない。

【企画課長】 他の地区においても、同様の質問があったところだが、船の運賃が安くなったわけではなく、運賃差額を国・県・町が補助している仕組みである。ホテルパックは、船とホテルを組み合わせた商品となっている。その仕組みは行政が立ち入れるところであるが、見直しの要望は各事業所に依頼をしていきたい。現段階では、ホテルパックで予約を行うより、それぞれインターネット等で予約する若干安くなる。面倒ではあるが、そちらを利用していきたい。

【住民】 昨年・一昨年とキビ不作だった。今年については、少し持ち直しているが平年作には届いていない。原因は、肥料代、刈り取り料が重荷になっている。現在の刈り取り料の見直しはできないのか。（6,600円～6,800円）

【町長】 刈り取り料を決定しているのは、役場、農業公社ではなく、生産組合の組織で設定している状況である。刈り取り料の改善ができないか、組織の中でも検討しているが、刈り取る収量が少ない場合は、採算が取れない部分もあることも理解いただきたい。ハーベスターが導入されてから、ある程度の期間が過ぎている。交換時期も迎えており、それらも踏まえると見直しも難しいところもある。刈り取り料が高いため離農が増加すると、生産組合も困るし、作付面積が減少すると、当然ながら新光糖業も何らかの対策をとることを念頭に置きながら検討していただきたい。今後、農業公社の理事会等でも検討していきたい。

【農林水産課長】 農業の単収が増加すれば、農家の刈り取り料も負担にならないこともあるが、刈り取り料に関しては、10年以上前に若干引き下げた経緯もある。物価（人件費、修繕費等）の上昇もあるため下げられないというハーベスター組合の意見もあることから、それぞれに言い分もある。様々な意見があるため、行政も指導が難しいところであるため、色々な関係者の意見を集約しながら調整する必要がある。

【住民】 刈り取り料金の採算が合わないということであれば、刈り取り料金に補助金を出すような仕組みはつくれないのか。

【町長】 刈り取りを受託している者は、ある程度の作付けをしているが、管理作業ができないことから単収が減少しているところもある。貸し手は、畑を荒廃させるよりはキビを作った方がよいと考える者もいる。管理作業をしないため単収が少なくなっている。行政としてもある程度の基準線を下回った場合は、何らかの処置が必要となることもあるのか、単収が増加してくると、現在の刈り取り料でもいいのかと思えるところもある。それらを含めて生産組合には、作付面積が減少すると生産組合にも影響があることを意識してほしいことは話している。サトウキビ・甘藷・園芸作物・畜産も含め、本町の基幹産業であるため、公平な税を考えた時に、皆さんが納得してもらえるような使い方をしていきたいと考える。今後も検討はしていきたい。

【副町長】 これ以上面積が減少すると、生産組合にも影響があるため、今後十分に検討が必要であると考えらる。

【住民】 両町（中種子町・南種子町）のキビ甘藷のハーベスター利用組合の話し合いがあった。南種子町からは自分の分だけしか切らないと意見があった。私たちのハーベスター機械も数十年が経過しており、修理代が1回の整備だけで30～40万円かかり、年間100万円以上かかる。そのことから、刈り取り料を下げることは受け入れることはできないということになった。

【副町長】 今後、共に検討していきたい。

【住民】 （鹿が）梶淵は人家にも来ている。最近は見かけても逃げることはなく、設置した網も飛び越えたり、潜ったりして、畑の中に入っている。

【農林水産課長】 屋久津、梶潟のシカの被害の連絡があるが、実態のところはいかがなものか聞かせていただきたい。今後の参考にしたい。基本的に、ほ場の周りに芋を放置（捨てる）、餌になるような物は置かないでいただきたい。

【住民】 機械をコンクリートの上に軟岩を敷きユニック車に載せたり、畑の中にユニック車を入れて積むようにしているが、勾配がきつくユニック車が上がらない。対応できないか。

【町長】 現場を確認させていただく。※畑の取り付け道路が急勾配であるということか？勾配の矯正をしないとユニック車が入らないということか？

【町長】 本町全体のほ場をみても、ハーベスターを使ったキビ収穫やユニック車を使った甘藷の搬出など大型化している。昔の耕作道路の規格自体が狭いため新たにほ場整備も必要である。30～40年前のほ場整備は、再整備の検討もしているため、徐々にではあるが農道等も整備しなければならない。農業従事者が減少している中で、規模が広くなると大型機械の導入は必要となっていくため、検討させていただきたい。

【住民】 県道野間島間線で改良されていない箇所がある。以前、鹿児島県の職員が「名義が変わらないと手が付けられない（神社）」との回答を受けたところであり、現在に至っている。しかし、最近は大型車の通行も増え、子どもたちの通学時には大変危険を感じる。冬場は、砂が飛び、歩きにくい状況でもある。名義人は多数いるようだが、代表者を決めて名義変更をするとできると聞いたが。

【建設課長】 名義が変わらないことには、町道も県道も改良ができないことになっている。代表者の名義にするとしても、共有名義であれば、そこからの所有権移転となる。調査は行うが難しいと思われる。

【町長】 名義変更が解決すれば、すぐにでも予算化すると鹿児島県の意向は聞いている。鹿児島県も一生懸命に動いてくれている状況である。

【住民】 旧車エビ養殖の正面入口に面する県道は、雨が降るたびに雨水が溜まり水捌けが悪い。昨年も熊本支庁に連絡しているが「検討中」との回答であった。あれから1年が立つが返事が来ない。もうすぐ梅雨時期に入るため対応できないか。（周囲が砂地で側溝が詰まり水が捌けにくい）

【建設課長】 引き続き要望は行っていく。

【住民】 公立種子島病院は、待ち時間が1時間以上もある。どうにかならないか。

【町長】 公立種子島病院は、待ち時間、午前診療と皆さんに迷惑をかけている。就任してから2年が立つが、その間、医者・看護師・事務局と管理者と今後について話しをさせていただいた。南種子町議員にも話しをしたが、中種子町民の病院を利用する者は2割～3割程度である。8割は南種子町民であるため、病院がなくなると一番困るのは南種子町民ではないか、そうならないためにも病院を盛り上げていかなければならない。就任してから、様々な方から、病院を捨てなさいとか金ばかり使ってなど言う者もある。電子カルテの導入を検討しているが、現段階では赤字額が大きく導入は厳しいが、導入できれば待ち時間が短くなると思う。現在、医師が3人であり、午前診療をお願いしている。午後からは入院患者を診察したり、老人施設を回診したり、また学校等の検診等も実施している。このような状況であり、1日診療の要望もあるが難しい。しかし、午後からも医師が1人待機しており、緊急な患者は診療する体制は整えている。薬を貰うための診療は、できるだけ午前に診療していただきたい。医師の確保ができ体制が整うと、病院も黒字に転じてくると予測するので、その時点で電子カルテ導入などの施設整備が可能となる。まずは、立て直しを行っていくうえで、午前診療ではあるが病院を利用していただきたい。

【住民】 梶潟1号線は、全長1.5km程度ではあるが、工事が5～6年以上経過している。事業費を見ると3,000万円ほど計上されているが、今後の計画等がどのようにになっているのか。今後、どの区間の工事を行うのか。

【建設課長】 端的に言うと、あと3年程度かかる見込みである。他町道の改良もあるため、計画通り進めて

いる。あと3年の間は辛抱していただきたい。昨年度、改良が終わったところから東側へ150m、来年度120mで31年度に完成予定である。

【住民】 阿高磯川の改修工事に着手している。私の自宅の前の橋から下流だが、以前、農地整備課と一緒にやった区画整理の椎ノ木坂を下り、左側の河川の右左を区画整理と合わせて行う説明会があったが、その後、どのようになっているのか。

【農地整備課長】 区画整理は、平成32年度中山間新規総合整備事業を計画している。今年度詳細な内容等も貰っている。名義の確定、一定の区画でくくられるか、ある程度の参加者が見込まれるかの下調べを土地改良連合会にお願いするのだが、その結果を見ながら事業化の判断を地元と一緒にやっていく。

【住民】 結局、河川工事と区画整理と合わせた事業はできないとのことか。

【農地整備課長】 区画整理は区画整理の事業で、その中で河川の部分を買収して事業化していくか協議が必要になる。

【住民】 阿高磯川の下流域は、擁壁が相当分、河川へ崩れている。上流が詰まるのも下流域の捌け口が悪いためではないか。かれこれ5年以上前から崩れている状態で、人も立ち入れない状態で非常に危険な場所である。

【住民】 治山工事の災害復旧事業であれば、そこで要望していけばいいのでは。地元からの要望もしているはず。

【農林水産課長】 鹿児島県の林務に早速連絡を入れる。

【住民】 校区活性化交付金事業があるが、どのような事業が対象になるのか。

【企画課長】 校区へも事業申請の手引きが届いていると思うが、校区は新規事業、それから新規からの継続事業3年を対象にするとのことであり、集落とは取り扱いが違ってくる。事業は、集落が行う分野では、話し合い活動、福祉、環境整備など、校区の新規事業については、具体的に事業の選定は難しいが、それぞれ話し合いを行って貰いたい。他校区の例も示すので参考にさせていただきたい。

会議資料	◇平成29年度中種子町行政報告会（岩岡校区）
------	------------------------